

2007年能登半島地震に伴う地下水・歪変化

Changes in groundwater level and strain associated with the Noto Hanto Earthquake in 2007

板場 智史 [1]; 松本 則夫 [2]; 小泉 尚嗣 [2]; 高橋 誠 [2]; 佐藤 努 [1]; 大谷 竜 [2]; 北川 有一 [2]; 桑原 保人 [3]; 佐藤 隆司 [4]; 田阪 茂樹 [5]; 佐々木 嘉三 [6]; 松原 正也 [7]; 小澤 邦雄 [8]

Satoshi Itaba[1]; Norio Matsumoto[2]; Naoji Koizumi[2]; Makoto Takahashi[2]; Tsutomu Sato[1]; Ryu Ohtani[2]; Yuichi Kitagawa[2]; Yasuto Kuwahara[3]; Takashi Satoh[4]; Shigeki Tasaka[5]; Yoshimi Sasaki[6]; Masaya Matsubara[7]; Kunio Ozawa[8]

[1] 産総研; [2] 産総研地質; [3] 産総研; [4] 産総研; [5] 岐阜大・総合情報メディアセンター; [6] 岐大・教育; [7] 岐大・総合情報メディアセンター; [8] 静岡県防災局

[1] GSJ, AIST; [2] GSJ, AIST; [3] GSJ, AIST; [4] AIST; [5] IMC, Gifu Univ; [6] Faculty of Educ., Gifu Univ.; [7] IMC, Gifu Univ.; [8] Disaster Prevention Bureau, Shizuoka Prefectural Government

<http://staff.aist.go.jp/itaba-s/>

産業技術総合研究所では東海～近畿地方にかけて地下水(全点)や歪(一部)の観測を行っている。また、岐阜大学では、岐阜県と福井県において地下水観測を行っている。2007年3月25日に発生した2007年能登半島沖地震に伴い、上記観測で地下水や歪の変化が観測された。多くは短期間の振動であったが、一部では長期的な変化が記録された。本講演では、地震時の観測結果と断層モデルから期待される計算結果との比較等について紹介する。